平成３０年２月２０日

加西市議会議長　衣 笠　利 則　様

総務常任委員長　中 右　憲 利

総務常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

記

１　日　程　　平成３０年１月３０日（火）～３１日（水）

２　視察先　　福岡県筑前町、福岡県古賀市

３　参加者　　中右憲利、黒田秀一、土本昌幸、長田謙一、深田真史
　　丸岡弘満、三宅利弘、桜井雄一郎（議会事務局随行）

４　視察内容等

◇福岡県筑前町（１月３０日（火）１３：３０～１５：５０）

（視察項目）大刀洗平和記念館の運営状況と記念館を活用した児童等の平和学習について

（視察対応者）企画課　岩下課長、山本副課長
大刀洗平和記念館　山本館長
議会事務局　倉掛局長

（内　　容）別紙のとおり

◇福岡県古賀市（１月３１日（水）９：３０～１１：００）

（視察項目）日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて

（視察対応者）学校教育課　木部課長
議会事務局　笹野さん

（内　　容）別紙のとおり

５　所　感　　各委員の所感は別紙のとおり

福岡県朝倉郡筑前町（H30年1月30日視察）

視察テーマ：　大刀洗平和記念館の運営状況と記念館を活用した児童等の平和学習について

①事業の方針

・かつてこの地は「東洋一」とうたわれた広大な飛行場がありました。それは陸軍が誇る西日本最大の航空拠点でした。

大正8年（1919年）に誕生し、その名も故事にちなんで「大刀洗」と名付けられました。大刀洗飛行場を中心とする一大軍都は、歴史的役割を果たしながら大きく発展していきます。

しかし昭和20年（1945年）3月27日と31日、二度とあってはならない運命の日、米軍の大空襲により数多くの尊い命とともに、巨大な航空基地もその姿を消してしまいました。

平成21年（2009年）10月、筑前町立大刀洗平和記念館が開館しました。故郷から遠く離れた戦地から愛する家族への想いを伝える手紙、遺書、辞世や、海軍、陸軍の戦闘機の実機などを展示しています。また映画上映、朗読により戦争の悲惨な記憶も伝えています。この地で起きた歴史の真実と平和の大切さを、永久に語り継いでいくために…（筑前町立大刀洗平和記念館パンフレット表紙より）

②施設の概要

・本館　鉄骨造平屋建　敷地面積8,768㎡　建築面積1,641㎡　延床面積1,883㎡

事業費と財源

本館総事業費は1,007,243千円、財源は合併特例債909,500千円及び一般財源97,743千円、但し合併特例債は起債額95%のうち70%が交付税措置される。

・新館　鉄骨平屋建　延床面積390㎡

事業費と財源

新館総事業費は211,440千円、財源は県補助金100,000千円、合併特例債91,847千円、一般財源16,193千円、ふるさと納税寄付金3,400千円

③展示内容

・大刀洗飛行場とその関連施設の概要、役割、歴史を紹介するコーナー

・飛行場とともに発展してきた日本航空技術を紹介するコーナー

・空襲、特攻という痛ましい事実を伝えるコーナーを設けるとともに、世界に唯一現存する九七式戦闘機、零式艦上戦闘機三二型の実物の機体も展示

・施設中央部は空襲で亡くなられた方々の遺影を顕彰する部屋と、映像「大刀洗1945.3.27」を上映する「語りの部屋（シアター）」を設置。映像の上映を合わせて平和を訴える朗読も実施。

④事業内容

資料の収集・保存活動

・大刀洗飛行場の歴史を後世に伝える貴重な資料（物や証言）の収集を進めるとともに展示・保存に努め、平和の大切さを後世に正しく伝える。

資料は、大刀洗飛行場に関係するものに重点を置き収集する。大刀洗飛行場に関わる戦跡については、保存できるものは保存し、広く公開する。（保存資料約3500点、うち常設展示している資料約300点）

教育・普及活動

・定期的にイベント・企画展を開催することにより、各年齢層の教育普及に努める。大刀洗飛行場の映像上映、朗読により命の尊さや平和の大切さを訴える。

・小中学生対象の解説書を作成し、戦争を知らない世代が平和を考える場となるよう努める。社会見学・修学旅行での正しい平和に関する学習・歴史学習を提供する。

啓発活動

・常設展示の追加・定期的な入れ替え、企画展の開催や入館者への館内解説の充実を図ることによって、大刀洗飛行場の歴史の理解を促進し、平和の大切さを訴えていく。

・大刀洗飛行場に点在する戦跡は、当時を物語る貴重な戦時資料と位置付け、戦跡を紹介するための地図を作成するとともにガイドボランティアの育成を図り戦跡巡りを推進する。

・記念館の目的を達成するためには、多くの来館者に来ていただき平和の大切さを実感してもらうことが必要である。そのために小中学校・高校など教育機関、地域公的団体、旅行業者やマスコミなどへの広報活動を強化する。

⑤平成 29 年度記念館の運営体制

館長	嘱託職員	1名	記念館運営全般・解説兼務
副課長	職員	1名	記念館管理全般・施設改善・平和事業全般
副館長	嘱託職員	1名	記念館運営全般・施設管理・解説兼務
解説担当	嘱託職員	3名	館内解説・案内・営業 PR
専門員	嘱託職員	1名	庶務全般・朗読部会・修学旅行・団体予約
学芸員	嘱託職員	1名	戦時資料管理・企画展等
窓口担当	嘱託職員	6名	売店グッズ管理・旅行会社清算事務・朗読事務補助
計		14名	

・筑前町の直営、基本的には独立採算制だが、入館者が 20 万人以上でないとペイできない。10 万人ぐらいだと 1000 万円ぐらいの赤字となる。運営費用は約 5000 万円、その 4 割は人件費。

⑥入館料及び開館時間

・入場料は大人（大学生以上）500 円（400 円）　高校生 400 円（300 円）　小中学生 300 円（200 円）
小学生未満は無料、カッコ内は 15 名以上の団体料金

・開館時間は 9：00～17：00（入館は 16：30 まで）休館日は年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

⑦入館者の実績

年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
人数	132,194	165,839	114,460	95,771	126,935	132,495	131,646	99,686
学校関係	25 団体 2,501 人	67 団体 4,297 人	79 団体 5,066 人	103 団体 7,983 人	147 団体 13,670 人	221 団体 18,393 人	234 団体 19,656 人	223 団体 18,815 人

・21 年度は 10 月からの半年間の人数。

・25 年からの回復は戦争映画等の影響と考えられる。

・28 年の落ち込みは熊本地震の影響と考えられる。

福岡県古賀市（H30年1月31日視察）

視察テーマ：　日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて

①小中学校2学期制の実施

2学期制とは、1年間を4月～10月上旬（前期）と10月中旬～3月（後期）の2学期で構成しようとするもの。古賀市では平成18年度から実施している。そのメリットについては以下のものがある。

授業時間数を多く生み出せる

・始業式等の行事や事務的な仕事を削減することによって、1年間の授業時間数を約20時間程度多く生み出すことができる。その結果、先生に時間的ゆとりができ、授業のきめ細かな準備、児童生徒との関わる時間の増加、学習を定着させる継続的な指導と評価など、様々な面で教育効果を上げることが可能になる。

7月と12月の慌ただしさが軽減される

・3学期制では、7月は先生、生徒にとっては学期末の慌ただしい時期であったが、2学期制にすることによって、特に中学校では、生徒は中体連の練習や試合に集中することができ、中体連の大会が終わった後に学期末テストに向けた勉強ができる。先生も夏休みをうまく活用することで、事務処理を楽にし、日々の学習指導に力を入れることができる。

先生が夏休み休業期間を効果的に活用できる

・家庭訪問を夏休みに行うこともできる。4月～7月までの子供たちの様子を先生からじっくり話してもらうことができるし、4月、5月の家庭訪問では「午後の授業がカットされてしまう」「家庭訪問期間は学校全体としての行事等が組みにくい」という状況を解消できる。さらに夏休み期間中にテスト問題の作成や通知表作成に向けての成績処理や事務処理ができ、9月からはより授業の充実に努めることができる。

長いスパンで児童生徒を観察し、評価することができる

・2学期制によって通知表による家庭への連絡は、3回から2回に減るが、前期後期約5カ月、長期的に児童生徒の向上や変容を評価し、連絡することができる。通知表で伝える情報量が減ることについては、夏休みの家庭訪問や個人面接、各種通信を工夫し、これまで以上の充実を目指す。

②全小中学校・全学年で少人数学級編成（35人以下学級）を実施

・個に応じたきめ細やかな対応の推進を図り、より教員が一人ひとりの児童生徒と向き合えるよう、平成28年度から市内全小中学校・全学年で少人数学級編成を実施。

・また、市内全小中学校に少人数学級対応教師を配置。

③様々な支援事業を実施

中学校部活動講師派遣事業

・中学校の部活動において、専門的な技術指導のできる指導者がいなく、部活動指導に困難をきたしている。中学校へ外部講師を派遣することにより、中学校部活動の充実を図る。

・採用資格⇒専門的指導力を有する地域の方

事業に係る経費⇒一人当たりの講師謝礼　1ヶ月5,000円　年間60,000円

任用者数⇒3中学校12名

「心の教室相談員」配置事業

・児童生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることができる第3者的な話し相手となり得る者を、児童生徒の身近に配置し、児童生徒が悩み等を抱え込まず心にゆとりを持てる環境づくりをする。

・採用資格⇒大学院生（臨床心理士資格取得予定者）　経費⇒1時間1,250円　1校312,500円

（算定基準1,250円×5時間×50日）　任用者数⇒各学校1名（小学校8名　中学校3名）

学習支援アシスタント派遣事業

・授業における個別的な対応や放課後学力補充学習、質問教室、長期休業中補充学習等をより充実させ、効果のあるものにするために学習支援のための学習支援アシスタントの派遣を行い、すべての児童生徒の学力の保障を図る。

・採用資格⇒大学生、大学院生、教員経験者、在宅教員免許取得者、地域の方等
経費⇒一人1回あたりの金額　1回1,500円（市外）　1,000円（市内）　任用者数⇒各学校に一任

「特別支援教育支援員」配置事業

・全ての障がいのある児童生徒をサポートするための支援員を配置し、障がいのある児童生徒一人ひとりに応じた教育の推進に役立てる。

・採用資格等⇒特別支援学校教員及び小中学校、高校の教員免許取得者　看護士、介助員等資格取得者等
経費⇒一人当たりの謝礼　1時間1,250円　1校1人375,000円（1,250円×5時間×60日）
任用者数⇒11校16名

小1プロブレム対策学級補助員配置事業

・小学校という環境になじめず学習指導や生活指導に困難が生じる小学校低学年担任の補助を行うことを目的とする学級補助員を配置し、すべての児童の学力の向上と学級の健全化を図る。

・資格要件⇒小中学校、高校教員免許取得者　任用者数⇒12人（1年生のクラス数が3学級以上は2人採用）
勤務時間1日あたり4時間、1年間に200日勤務　経費⇒一人当たり年間714,400円

あすなろ教室（不登校児童・生徒の支援）

・子どもの不登校や引きこもりの状態を一歩でも前進できるよう、家族や学校と連携して指導員・ヤングアドバイザー（学生ボランティア）・カウンセラーが指導・援助にあたり学校復帰を目指す。
ここへの通級は在籍校での出席とみなす。平成28年度の実績で不当等児童生徒の11.8%があすなろ教室に通い、そのうちの60%が通常の小中学校に戻っているとのこと。

④特色ある取組

朝弁＆朝勉（古賀東中学校の取組　週2回）

・学力支援の思いが、地域と学校をつなぐ心の支援活動へと進化した連携活動
〈朝勉〉“塾に通うにも不便な山手の子供たちに学力支援を”
生徒は自主学習、見守りは教師とボランティアの保護者。
〈朝弁〉“地域の子どもの学力につながるように、お腹と心を満たしたい”
学習後、地域農村加工所がおにぎり、ボランティアの保護者が手作りスープを提供。

「こしぼねタイム」

・ねらい
立腰姿勢を保つことによって、健康の保持増進を図るとともに忍耐力を育てる。
立腰姿勢を体得させて「聴く・学ぶ・考える」等学習に対する基盤を確立し、「夢や目標に向かって挑戦する子ども」を育成する。

・実施日時　毎週火曜日　1校時目の始業前から（8：33～8：36）
8時33分に準備開始の放送を入れる⇒放送に従って立腰姿勢をとり、立腰・瞑想を開始する
⇒立腰姿勢のまま、1校時目の挨拶をして授業を始める

⑤小中連携教育

・中学校区ごとに協議会、部会を組織し、目標を持って連携教育を推進している。

・古賀市としては小中一貫教育は目指していない。今の形の小中連携教育で十分いい教育を行っていけると考えているとのこと。

総務委員会視察（H30年1月30日～31日）［所感］　　中右憲利

◇福岡県朝倉郡筑前町【大刀洗平和記念館の運営状況と記念館を活用した児童等の平和学習について】

視察日　平成30年1月30日

・大刀洗平和記念館の展示品の多さとその充実ぶりにまず驚いた。特攻攻撃によって亡くなった多くの兵士の写真、寄せ書きされた日の丸、唯一の現存機である零戦三二型と九七式戦闘機、そして数多くの遺書。
・また、年3回程度の企画展は、業者に委託せず自分たちで他の記念館等と資料交換をしたりして実施しているとのこと。
・館内で上映された映画とそれに続く朗読（当日は立石国民学校児童31名が犠牲になった様子が上映され、特攻隊兵士の物語が朗読された）は、戦争の悲惨さが胸に迫って心を動かされた。
・これだけの記念館でもなかなか独立採算でやっていくのは難しいということであった。
・加西市がこれから作ろうとしている鶉野ミュージアムはこれよりもだいぶ規模の小さなものになると思うが、工夫をしてきちんとした平和教育のできるようなものにしていただきたい。
・また、来館者を多くするためにはフラワーセンターの他に玉丘史跡公園なども魅力のある観光地にして、様々な種類の観光が一体としてできるような形にするべきと思った。

◇福岡県古賀市【日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて】

視察日　平成30年1月31日

・大変思い切った色々な取り組みをしておられることに感心した。
・特に2学期制は平成15年から試行を始めて18年には古賀市の全小中学校で実施されている。多少の課題はあるものの、メリットの方が圧倒的に大きいということで、今2学期制にするところが増えつつあるということ。加西市も検討してもいいのではと思った。
・また、市費を1億2千万ほどかけて、いろいろな支援事業をしている。中学校部活動講師派遣事業、心の教室相談員配置事業、学習支援アシスタント派遣事業、進学支援事業、小1プロブレム対策学級補助員配置事業、特色ある学校づくり支援事業、ITを活用した防犯システム整備事業、スクールソーシャルワーカー配置事業、接遇マナー研修、不登校児童生徒のための「あすなろ教室」等、よくもこれだけと感心した。加西市でも導入を検討すべきものがあるのではないだろうか。
・学校・保護者・地域が連携をして行っている朝勉＆朝弁もユニークな取組と思うし、腰骨を伸ばすことにより集中力や持続性を養う「こしぼねタイム」、市内中学校の制服及び近隣高等学校の制服のリユースを学校教育課が窓口になって行うことも素晴らしい取組と思った。
・なぜこのような思い切った多くの取組を形にできたのかと聞くと、教育長の経験とリーダーシップという答えだったと思う。加西市でも頑張っていただきたいと思う。

所感　黒田秀一

【福岡県朝倉郡筑前町】大刀洗平和記念館の運営状況と記念館を活用した児童等の平和学習について

加西市には元海軍の鶉野飛行場があり、筑前町には陸軍の大刀洗飛行場がありました。鶉野飛行場は昭和 18 年に開設されましたが、大刀洗飛行場は大正 8 年に誕生し、歴史を感じました。

この飛行場は、特攻隊の中継基地として数多くの特攻隊員たちの出撃を見送った場所でもありました。

大刀洗平和記念館は、家族の手紙や遺書、陸軍や海軍の戦闘機などが展示してあり、後世にこの世またこの地で起きた真実を語り継いでいくにふさわしいと思いました。子供達に平和の大切さ、また戦争の虚しさを伝えなければならないと思いました。

特に戦争の悲惨さや平和の尊さを語る朗読公演は感銘を受け、涙する思いでした。

加西市も何年か先にはミュージアムが建設されますが、中途半端なものを建てず、立派な全国から見学者が多く訪れる建物を造って、平和学習をして、後世に残していけたらと思いました。

【福岡県古賀市】日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて

古賀市では、子供達への教育施策に力を入れており、支援も充実しているとのことでした。一つに小中学校 2 学期制で、1 年を通じて 20 時間程度授業時間を増やせ、これまで以上にきめ細やかな指導、学習を定着させることが可能になるとのことでした。また、先生方に少しゆとりができて、授業の充実が図られ、子供と関わる時間が増えるとのことでした。

そして、学力支援の思いが、地域と学校をつなぐ心の支援活動として「朝勉、朝弁」が生まれ、連携活動につながっているとのことでした。朝の自主学習の後、地域農村加工所がおにぎりを作り、ボランティアの保護者が手作りのスープを提供するとのことです。

それから、市費から少人数学級対応講師を採用して学習指導や生活指導の充実を図っているとのことです。加西市でも体育指導、部活指導の対応講師を採用してスポーツにも力を注ぎ、盛んにすべきだと思いました。

総務委員会　視察報告書（所感）

土本 昌幸

1. 福岡県筑前町：大刀洗平和記念館の運営状況と記念館を活用した児童等の平和学習について

大刀洗平和記念館及び飛行場関連施設を視察して主に感じた内容は以下の通りである。

1）大刀洗平和記念館周辺は、飛行場関連施設の総面積が約 119 万坪（約 394 万㎡）の広大な範囲に点在しており、維持運営費をまかなうために入館料を当てている。
2）平和記念館は展示工事を専門家に委託した結果、見学コースとしては良くできている。
3）ボランティアガイドが充実している。3つに編成（朗読、館内、フィールド外）されており、それぞれの説明が分かりやすい。

＜考察＞

加西市の場合は当時の滑走路が現存するために貴重であるが、活用については充分な検討が必要である。また、展示品の確保については他市の記念館との連携が必要と考える。それと案内ボランティアの確保・育成については施設完成前に進める必要があると考える。

2. 福岡県古賀市：日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて

古賀市の教育に関する取り組みを視察して主に感じた内容は以下の通りである。

1）2学期制により、年間約 20 時間授業時間が増加
2）小中学校全て 35 人学級実施
3）土曜日授業を年 5 回実施（振替あり）
4）朝勉&朝弁を週 2 回実施（始業 1 時間前から）
5）制服のリユースで「ものを大切にする心」を育成（中学制服の善意のリレー）

＜考察＞

3学期制から2学期制することで、教師だけでなく児童生徒もゆとりが出来る。兵庫県では実施校がないとのことだが、全国的には増加傾向ではないか。また、小中学校全てに 35 人学級を採用することにより、個別指導が充実すると考える。朝勉&朝弁や制服のリユースの取組では、地域全体で教育をサポートしていると考える。

教育立市を掲げて確かな学力と豊かな人間性を育む学校教育の取り組みについては参考になると考える。

［所感］　長田　謙一

【福岡県朝倉郡筑前町】　大刀洗平和記念館の運営状況と記念館を活用した児童等の平和学習について

戦後70年経過し、戦争という痛ましい事実さえ風化されつつある中、こうした歴史的事実を踏まえ、旧日本陸軍大刀洗飛行場の概要や歴史を紹介するとともに、特攻や大刀洗大空襲で亡くなられた方々追悼と恒久平和のメッセージを発信し続けることが目的となっている。鵜野飛行場滑走路跡保存においても、加西市民も同じ考えと認識する。

事業費と財源は、旧館は約10億700万円余りの内合併特例債9億900万（起債額95%の70%を交付税措置）、一般財源9,700万余りで合併特例債の大きさを痛感した。

展示内容については、大刀洗飛行場と関連施設の概要、役割、歴史紹介、日本の航空技術の紹介、世界で唯一現存する九七式戦闘機、零式艦上戦闘機三二型の実物機体の展示、平和を訴える朗読の実施、これには目頭が熱くなり特に感動した。

教育の普及活動（小中学生対象に戦争知らない世代に平和考える学習、社会見学、修学旅行で平和に関する歴史の学習を提供する）このことは、必要不可欠であると感じた。

啓発活動で教育機関、地域公共団体、旅行業者、マスコミへの広報活動、入館者の実績としては、年間12、13万人で黒字転換であるが、10万人を切ると1,000万円の赤字が出るとのこと。独立採算制は難しいと認識した。

加西市において、鵜野飛行場跡地を観光施設として整備するとの考えであるが、箱物を建設して戦争資料の収集・保存は、しっかりと計画を立てて国、県を巻き込み全国に発信することを期待したい。

【福岡県古賀市】　日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて

先ず、小中学校一年間の学習期間を2学期制導入により夏休みまでを一学期、夏休み以降を前期、後期と設定してこれを二学期という学習スタイルである。二学期制の実施は、平成18年度からおこなっている。

この制度導入により通知表の改善、家庭訪問の工夫、学校改革については保護者の戸惑いが最も強かったとのこと。学力の低下が懸念されていた。

古賀市は、人口の減少が少なく加西市と同様の小中連携教育を実施しており、小中一貫教育は実施しないとのことである。

加西市においては、生徒数減少で果たして二学期制導入は効果あるのか調査の必要があると認識する。

（視察の所感）　深田 真史

福岡県筑前町【大刀洗平和記念館の運営状況と児童等の学習活動について】

年間の記念館のランニングコスト（人件費含む）が５～６千万円かかっており、町の方針は「入館料収入で極力まかなうべき」との考えであるという。その後の維持管理で、大変重要なポイントであると感じた。さらに、記念館からは「いくら立派な記念館を作ったとしても、どれだけ入館者があるかしっかりと想定しておくべき」との助言もあったが、やはり鞍野でも年間の来場者数がどのくらいあるのか、また、どの程度の施設規模がふさわしいのか、検討委員会で細かい点まで詰めて議論すべきではないか。

また、筑前町では合併特例債を活用して、増築部分も含む約１３億円もの多額の費用をかけて建設しているが、加西市では「建設するための財源をいかに捻出するか、確保するか」が課題である。今進めている地方創生推進交付金は、ハードに活用できるのか疑問。国頼みの事業費ではなく、あくまでも自前で建てることが前提でなければならないと思う。

現在の課題として、記念館の周知とリピーター対策が聞かれたが、まさに鞍野もそうでないか。その点、特別展や企画展といった「何度も来たくなる記念館」の必要性を感じると同時に、それをするだけの熱意のある人達が運営に関わることも重要だ。また、戦争体験者が９０歳を超える状況になっており、体験者の聞き取りや戦時中の資料収集が急務であるとの認識を共有した。

福岡県古賀市【日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて】

古賀市のように「２学期制」に移行すべきとただちに思わないが、加西市でもインフルエンザによる学級閉鎖が相次いでおり、授業時数確保の点からも夏休みの短縮はおこなうべきではないかと思った（古賀市の場合、教室のエアコンは未整備だが、整備すればその考えがあることも記しておく）。

また、約１億２千万円もの一般財源を投入し、小１プロブレムや少人数学級対応、ヤングアドバイザーなど市独自の講師を採用している。この点、加西市と同じであるが、結果として「費用対効果」を追求しており、無駄を省きつつ、かけるべきところにかけることを徹底する考え方をしていることも素晴らしいと思った。加西市の教育もそのような考えが重要ではないか。

また、小中一貫教育についても、古賀市流の「小中連携」や「ＰＴＣＡ」の形があるために実施する必要がないとの方針であるが、確固たる考えとそれに基づく実践があるからだと感心した。

〔所感〕丸岡弘満

【福岡県筑前町】

○「大刀洗平和記念館の運営状況と記念館を利用した児童等の平和学習」について

戦前この地は、東洋一と謳われた旧日本陸軍大刀洗飛行場とその関連施設が広がり、かつては一大軍都として発展してきたそうです。限られた時間であったため、足早に車で移動しながらボランティアガイドさんの現地説明ではありましたが、広大な土地を利用して関連施設が色々と建設されていたということがよく分かりました。ただ、昭和20年3月27日、31日を中心とした米軍による空襲で関連施設は壊滅し、戦後ほとんどの施設や土地が民間へ払い下げられたために、当時のままでの様子をうかがえる戦争遺跡物も少なかったように思えます。しかし、当時の貴重な白黒写真が多く残されていたために、現在の風景とそれを対比することで、かつての街の賑わいや軍人・国民の様子が頭に思い浮かび想像することが出来ました。

記念館内では、世界に唯一現存する九七式戦闘機と零式艦上戦闘機三二型の実物の機体展示だけでなく、当時の様子を伝える短編映画を上映する100席ほどのシアター部屋もありました。また、大刀洗大空襲では、軍人や軍関係だけにとどまらず、民間人や国民学校を下校中の子供達にまで多くの犠牲者が出ました。その亡くなられた方々や知覧から出撃した特攻隊員への追悼の思いを込めたボランティア朗読もあり、聞くもの全てが心を打たれ涙し感動をしました。

そして、この飛行場は、特攻の中継基地として数多くの若き特攻隊員達の出撃を見送った場所でもありました。旧日本陸軍大刀洗飛行場の概要や歴史を紹介するとともに、特攻や大刀洗大空襲で亡くなられた方々への追悼と恒久平和のメッセージを発信することで、福岡県を中心とした九州各地や山口県からも記念館を利用した児童等の平和学習の場としても多くの利用者があります。

しかし、開館から来館者数は減り続け、3年目になって10万人をきりました。映画「永遠の０（ゼロ）」等の影響やメディアに取り上げられることで来館者も増えてきましたが、今後の課題として、これまでのように業者委託するのではなく地域とのコラボイベント・企画展や常設展示の追加・定期的な入れ替えを含む新館の活用を図っていき、来館者数を増やしていきたいとしており、今後加西市

の平和記念館の運営において非常に参考になるのではないかと思いました。

最後に、視察を終えて感じることは、戦後70年を経過し、戦争という痛ましい事実さえ風化されつつある中、先人達の数々の偉業や歴史的事実を踏まえた貴重な資料・記念館をどのような形で維持して経営していくのかということです。大刀洗平和記念館も初めはあくまでも個人・民間による小さな記念館からスタートをし、合併特例債を利用して約10億円のオンリーワン事業「大刀洗平和記念館」と新館（増設）約2億円の大きな施設が公によって建設されましたが、来場者数と年間の収支経営バランスに大変苦しんでいる状況があります。加西市においても、現在鶉野飛行場跡に「大刀洗平和記念館」よりも小さな規模の（仮）平和ミュージアムの建設予定でありますが、予算がないからという単純な理由からの縮小は、今後の来場者などの入場料収益に大きく影響してくると思います。特に、今回の視察では、来場者数と施設予算についての不安と課題を強調されたような印象がありますが、子供達への平和教育や郷土愛、先人達の活躍や特攻隊員が残された遺書、貴重な歴史遺産の継承と歴史教育の学びの場として施設維持をするということを第一義とし、どうしても採算が取れないことも致し方ないのではと思います。ただ、大刀洗平和記念館（先進地）が抱えるこの現状を鑑み、（仮）平和ミュージアム建設前から如何に我が事のようにこの課題に取り組み対策をすることが大切です。以前、筑波海軍航空隊記念館を視察した時の所感でも指摘して述べさせてもらいましたが、施設の管理運営は全て行政がやるのではなく、あくまでも民間団体やＮＰＯ法人へ経営管理委託して任す方が良いと考えます。

【福岡県古賀市】

○「日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組み」について

古賀市では、心豊かに学び続ける人が育つ「教育立市こが」を目指して、市長部局と教育委員会が一体となって様々な施作の推進をするため「２学期制と人的配置」を県内の市町村に先駆け、平成１８年度から市内全小中学校で２学期制を敷き、現在ではその効果が特色ある学校づくりやゆとりある教育課程の工夫、家庭や地域との連携強化等によって確実に結果が出ているといわれています。今回の説明担当者は、実際の教育現場で管理職経験や２学期制の制度を作り導入した時の教育委員会事務局メンバーであったためか、パワーポイントと資料を使った非常に分かりやすく思いのこもった説明内容で大変勉強になりました。制度だけでなく、しっかりとした市単独予算処置（約１億８千万円）をして専門職の人的加配（相談・支援員、担当講師、アシスタント等）を実現していることが子供達にとっても教える側の教師の負担も軽くなり、理想的な教育環境がここでは整備されているのではないかと思いました。成果として、児童生徒や教員も年間を通じたゆとりのある教育活動の実施が出来ていることや授業時数の確保と授業の充実（学習内容の定着・学力向上につながっている）、生徒指導の充実、評価の充実が挙げられています。

また、古賀市では、手厚い人的加配だけでなく、他にも「市民聴講制度」や「こしぼねタイム」など色々な特色ある取り組みをされていますが、地域ぐるみの「朝勉＆朝弁」が全国的に大変珍しく、マスコミやＴＶにも取り上げられ注目されています。「朝勉＆朝弁」（朝勉強：自主学習、朝弁：おにぎり・味噌汁）が実施された背景には、全国調査で福岡県や古賀市の子供は家庭で朝ご飯を食べていないという結果と朝食抜きが原因で勉強に集中できない等や無気力状態の児童生徒が多かったようです。そこで生まれたのが地域と連携をしての朝の自主学習の見守りと朝食提供の取り組みだったようです。このように地域が学校へ積極的に関わり、活動が地域のボランティア協力で成り立っているのは非常に珍しいと思います。担当者もＰＴＣＡの“Ｃ”が自然発生的に出来上がったとも言われていました。今後は、この「朝勉＆朝弁」で育った中学生が卒業後、後輩に勉強を教える立場に成長することを期待して続けていかれるようです。大変良い取り組み事例だと思いました。

そして、古賀市の２学期制度の説明を聞いていますと、逆になぜ全国各地の学校が３学期でなければいけないのか、３学期制に拘っているのか、２学期制度ではいけないのかという根本的な疑問が湧いてきます。やはり試験的に導入した時などは異論もあったようですが、メリットを最大限に生かして保護者・地域・教員への丁寧な説明と結果を出すことによって平成１８年に本格実施（平成 15 年から試行）に至ったようです。加西市においても思い切った発想の転換で「２学期制度」を導入しても良いのではないかと思いました。

また、古賀市のお隣には福岡市や春日市など人口が増えている市がありますが、この「日本一通いたい・通わせたい学校を目指す取り組み」が古賀市の人口流出阻止策にもなっていると自信を持って言われたのも印象的でした。

所感　　三宅利弘

○　筑前町

「大刀洗平和祈念館の運営状況と記念館を活用した児童等の平和学習について」

まず、

＊大刀洗飛行場の遺跡の現地視察では、部分的（掩体壕等）に残ってはいるものの民間への払下げもあり少し物足りなかった。

＊記念館では、最初に映像と平和を訴える朗読を聞いた、「ほたる」を朗読された女性の方は、ボランティアでされているが実に見事に表現され涙が出るほど感動した。

　記念館の規模は,８７６８㎡でかなり大きく展示内容は、零戦の実物もありまた、当時の写真，遺書等々数多く収集され立派なものであった。

＊事業費と財源については、約十億かかっているがそのほとんどを合併特例債で利用されているのでこれだけの施設ができたのだと思う。

＊平和学習については、修学旅行等多くの学校からの団体を受け入れ、活動されているようである。

＊運営面においては、来館者数は開館当初に比べ少なくなってきており年間約１千万あまりの赤字となっている点、厳しい状況に置かれているように思った。

○　古賀市

「日本一通いたい・通わせたい学校をめざす取り組みについて」

＊二学期制については、平成 15 年から 3 年間試行した上で 18 年より本格実施とかなり早くから取り組まれ成果としては、時間的、精神的なゆとりの中で教育活動を展開しておられる、特に先生にゆとりが生まれ、増加時間数（10～20 時間）の有効活用が図られている点は、より充実した生徒指導が出来ているのに感心し、二学期制では、多くの利点があるように思った。

＊特徴的な事業では、:「こしぼねタイム」の実施：地域ぐるみの「朝勉&朝弁」の取組：中学校部活動講師派遣事業等々多くの特徴的な取り組みがなされている、特にＰＴＣＡの連携が素晴らしい地域の協力は、なかなか得られるものではないが、コミニティスクールを確立されていることに感心した。